



西院小の窓

学校だより「後期学校評価」特別号

令和7年 3月24日

京都市立西院小学校校長 坂本 恵一

2回目 学校評価の結果から

12月にご協力いただきました「前期学校評価」の集計結果と考察を報告させていただきます。

この結果をもとに、学校の様々な取組を再確認し、よりよい学校づくりに生かしていきます。

＜今年度の学校の取組＞（文中の割合は肯定的な回答（「Aよくあてはまる」「Bあてはまる」）を示す）

本校では、学校教育目標「夢に向かって 自分を大切にし 他とのつながりを大切にできる子の育成～一人一人が輝き 愛される西院の子～」の実現のため、すべての教育活動の中で主体的・対話的で深い学びを実践し、児童の自己指導能力を育成することを目指し取り組んでいます。そして、生徒指導の実践上の4つの視点と言われる「自己存在感の感受」「自己決定の場の提供」「共感的な人間関係の育成」「安全・安心な風土の醸成」や知識構成型ジグソーフ法等を使った授業展開の工夫を行っています。また、人権教育を基盤とした取組を進めています。



【めざす子ども像1】自ら進んで学習し、互いに高め合う子（確かな学力）について

「自分の思いや考えを友だちや先生に伝えている。」という項目に対しては【児童 80.5% (-0.4P)、保護者 85.4% (+0.5P)】と、保護者の数値が前期を少し上回る一方で、児童は前期を下回っていました。なぜ児童は、下回る結果となってしまったのか気になりました。数値から「大人が子どもをしっかりと評価している」ということは紛れもない事実であると感じますが、実際に力がついてきている児童は、自分たちの力を図るためにものさしの存在がなかったのではないかと感じています。そうなると、必要なことは、その成長を実感するための評価の在り方であると考えています。学校には、指導と評価の一体化という言葉もありますが、この結果からも指導に対して評価が占めるウェイトが低くなっていた可能性があると感じました。指導と評価の一体化という言葉はいろいろな意味でも用いられるものですが、今後、学習指導に対してどう評価していくべきなのかについて、教員が強く意識していくことが必要であると考えています。

「話し合い活動では、友だちの考えを知り、自分の考えを深めたり、広げたりしている。」という項目に対しては【児童 87.4% (+1.0P)、保護者 95.8% (+5.7P)】と児童の数値が前期を1ポイント程のみ上回り、更に保護者は5.7ポイントも上回っていました。学校では、話し合い活動にスポットを当て、その機会を日々大切にした取組をしています。その成果として、児童の家庭での様子にも変化が見られたのかも知れません。実際に家庭での様子を見たり聞いたりしたわけではありませんが、この2者の数値を比べてみても、そのようなことが言えるのではないかと考えます。協働的な学びを通じて、他者と関わりをもつことは、家庭での親子のコミュニケーションにも変化を及ぼすのかも知れません。また、他者と協働することにより、学校での友達との関わりを家庭で伝えるきっかけとなるのかも知れません。協働的な学びは、児童だけでなく、保護者も子どもたちの成長を感じられる大事な機会となっているのではないかでしょうか。

「子どもが安心して学べる学校・学級になっていますか。」という項目に対しては【保護者 93.8% (-1.3P)】と、前期に続いて90%を上回っていました。児童が楽しく学校に通えるためには、「子どもが安心して学べる学校・学級になっていますか。」という項目は最重要であると考えています。今後も教職員一同、安心して学べる学級づくりを目指し、構築していくことで、安心できる環境づくりを大切にしていきたいと思います。

【めざす子ども像2】互いに認め合い、自分も友達も大切にする子（豊かな心）について

「楽しく学校生活を送っている。」という項目に対しては【児童 91.6% (-0.8P)、保護者 95.8% (-0.7P)】と保護者の数値がどちらも90%を上回っていました。ここで気になることとしては、児童の数値が保護者と比べて下回っているということです。もちろん、90%は超えている為、いずれにしても高い数値を示しているとはいえ、約10%を占める子どもたちは、そこまで楽しいと感じていない実態があることが分かりました。今現在、学校で進めている取組は、児童・保護者の高い数値には繋がっているとは感じますが、今後は10%の児童をより意識して、全ての児童が「通いたい学校」、保護者の方が「通わせたい学校」となるよう、幸福度No.1の学校を目指していきたいと思います。

「自分のよいところに気付いている。」という項目に対しては【児童 85.8% (-2.1P)、保護者 81.5% (-2.9P)】と児童・保護者の数値は前期を下回っていました。自分の良いところは、自己肯定感に大きく関わるところです。児童の数値が前期より減少を見せたり、90%を下回ったりしていることは、やはり教師からの評価に関わる部分や児童に対する教員の働きかけの面が関係していると予想されます。指導と評価の一体化という言葉が示すように、教師は、指導すべきことは指導しつつ、そのことを次の意欲に繋がる積極的な評価としていくことが必要であると考えています。

「友だちのよいところを見つけ、友だちを大切にしようとしている。」という項目に対しては【児童 96.4% (+0.3P)、保護者 95.6% (-0.6P)】と児童・保護者の数値が100%に近い数値を示していました。児童の様子を見ている教員からは、友だちとの関わりが評価されていますし、当事者である児童もそのことを強く実感していることが分かりました。この項目は、協働的な学びに繋がる学習やその機会、取組を進めていくことで今後も100%を維持していってほしい項目だけに、児童同士の関わりが深まるよりよい取組について、今後更なる工夫が必要になってくると考えています。

【めざす子ども像3】身も心も鍛え、命を大切にする子（健やかな体）について

「進んで体を動かしている。」という項目に対しては【児童 85.6% (-0.7P)、保護者 75.1% (-1.5P)】と、児童・保護者の数値が前期を下回っていました。後期の学校評価については、冬場という寒い時期であったため、前期と比べても外遊びをすることが億劫になってしまった児童の存在があったのかも知れません。もちろん、運動場での遊びが学年によって割り当てられているため、進んで体を動かして遊ぶ機会も限られているとは感じますが、急な寒暖差による影響が大きかったのではないかとも考えられます。今年度もそうであったように、来年度以降も夏場の暑さ指数が上昇し、運動場での活動が制限されることや、季節の変化に伴う寒暖の差が緩和されることはありません。自然現象のことであるので、仕方のないことではありますが、そういった意味でも今後よりよい取組について考えていく必要があると感じます。

「交通や学校のルールを守って安全に生活している。」という項目に対しては【児童 93.5% (-2.3P)、保護者 98.0% (0.2P)】と児童・保護者の数値は前期に引き続き、90%を超える高い数値を示していました。これは、地域の協力がとても大きな影響を及ぼしているように思います。見守り隊、交通安全推進会、安心・安全推進会の方々が児童の登下校を見守り、日々の安全指導に努めてくださることはもちろん、交通安全推進会の方による交通安全教室での学習や安全指導、啓発が、児童・保護者の安全意識の向上に変化をもたらしていることは、紛れもない事実であると感じます。今後も、地域のご協力を賜りながら、学校でも安全への啓発やアナウンスを絶えず行い、児童一人一人が安全を大切にする、ひいては、命を大切にする意識を今後も大切にしていきたいと思います。

＜保護者による学校（自由記述）＞

自由記述欄には、様々な視点から多くのご意見お考えをいただきました。本当に有難うございます。ここで全てのご意見にお答えすることはできませんが、いくつかご回答させていただきます。

「スポーツフェスティバルは、平日開催か土日開催か、どちらが望ましいか」というご意見を多くいただきました。来年度の実施時期や平日か休日かに関しては、学校のその他行事との兼ね合いや、気温の関係など、児童の健康のことを考えたり、児童や保護者にできるだけ負担の少ないことなどを気にしたりしながら設定していきたいと思っています。天気に関わる急な対応に関しましても、今年度の反省を生かして、よりよい実施ができるよう努めてまいります。

「アプリは便利だが学校からの一方的な連絡になりがち」というご意見もいただきました。昔と比べて、アプリの導入により、お便り等、こちらからのお知らせやアナウンスが届くようになつたことで、便利になった一方、簡単に連絡が済んでしまうことから、学校と保護者の繋がりが疎遠になってしまっているようにこちらも感じております。今後、一方的になつたのではなく、コミュニケーションも取りながら、よりよい関わりを大切にしていけるよう、今後も工夫していきたいと思っています。

貴重なご意見をいただき、本当に有難うございました。

＜学校運営協議会の皆様のご意見＞

学校というコミュニティの場を通じ、地域・保護者・学校、相互の関わりを大切にすることで、今年度は「相互の深い繋がり」が生まれ、西院地域をよりよいものにしていると感じています。この3者の心が一つになり、協力的な体制になっていることが、この学校の強みであると言えると考えています。



